

2023年度（令和5/4～令和6/3 インシデント・アクシデント報告総数）

医療事故等	レベル	報告件数
インシデント	レベル0	56
	レベル1	231
	レベル2	412
	レベル3a	270
アクシデント	レベル3b	11
	レベル4a	0
	レベル4b	0
	レベル5	0

レベル3b以上の一括公表

1事例目

発生場所	公立世羅中央病院
発生日	2023年6月20日
患者の年代	90代
患者の性別	女性
患者の居住地	県内
発生状況・結果の概要	ポータブルトイレと床頭台の間についてうつ伏せで倒れているところを発見、主治医へ報告。CT検査・一般撮影施行、右前頭眼窩骨折と診断。保存的治療となる。
原因	ポータブルトイレ使用が自立されたためセンサーをOFFとしていた。
再発防止策	ポータブルトイレ移動時は、ナースコールを押して知らせていただくよう説明。ポータブルトイレ前に滑り止めのゴムマット設置。

2事例目

発生場所	公立世羅中央病院
発生日	2023年7月28日
患者の年代	90代
患者の性別	女性
患者の居住地	県内
発生状況・結果の概要	7/27、14：41右膝痛訴えあり、熱感軽度あり発赤・腫脹なし。23:30右下肢の疼痛・腫脹あり脱力出現しており立位保持不可。7/28・5：55右股関節から大腿にかけ腫脹・熱感あり、疼痛著明なため主治医報告。一般撮影・CT撮影後、整形外科にて右大腿骨転子部骨折が発覚。家族説明後、手術となる。
原因	入院中、転倒は発生していない。骨折の原因は不明。
再発防止策	疼痛の訴え・局所変化あるときは、直ちに主治医に報告。異常の早期発見に努める。

3事例目

発生場所	公立世羅中央病院
発生日	2023年8月3日
患者の年代	80代
患者の性別	女性
患者の居住地	県内
発生状況・ 結果の概要	外科開腹手術後、イレウス発症。絶飲食・腸刺激にてイレウス改善しないため、イレウス管挿入必要と判断。内視鏡下・イレウス管挿入時にカメラあるいはガイドワイヤーにて十二指腸憩室穿孔したと思われる。
原因	カメラあるいはガイドワイヤーが十二指腸憩室内に迷入した際に速やかに抜去した方が良かったが、憩室内に入った事に気付くのが遅れた。
再発防止策	CT検査にて十二指腸憩室が疑われる時は、同部まで挿入しないようにする。

4事例目

発生場所	公立世羅中央病院
発生日	2023年9月11日
患者の年代	80代
患者の性別	男性
患者の居住地	県内
発生状況・ 結果の概要	床に座り込んでいる状態を発見、主治医に報告。指示にて一般撮影施行、肋骨骨折と診断され保存的治療となる。
原因	介助バーが設置されているが、ポータブルトイレを把持し立ち上がろうとしたが、ポータブルトイレも軽いタイプであったため転倒した可能性ある。転倒時、靴を履かず素足であった。
再発防止策	靴を履き、介助バーを把持して立位になっていただくよう説明。ベッドセンサーを離床から端座位に変更。ナースコールの早めの対応を行う。

5事例目

発生場所	公立世羅中央病院
発生日	2023年11月3日
患者の年代	90代
患者の性別	女性
患者の居住地	県内
発生状況・ 結果の概要	ベッドと床頭台の間に座り込んでいる患者を発見。左前額部3.0×3.5cmの血腫確認。ポータブルトイレ移動時嘔気・前額部の痛み訴えあり。主治医に転倒したこと、その後嘔気出現したことを報告、頭部CT検査。急性硬膜下血腫と診断、緊急手術となる。
原因	ベッドセンサーの設定が、患者状態に合っていなかった。
再発防止策	センサーの設定が患者に適しているかフローチャートに添った評価を行う。転倒・転落時のマニュアルに沿った対応を行う。

6事例目

発生場所	公立世羅中央病院
発生日	2023年11月15日
患者の年代	90代
患者の性別	女性
患者の居住地	県内
発生状況・ 結果の概要	11/13・リハビリより看護師が膝の腫れがあることを報告を受け確認。 11/14・主治医に報告、一般撮影行ない右大腿骨顆上骨折が判明した。
原因	患者情報が、主治医へ速やかに報告されていない。
再発防止策	患者の異常発見時は、速やかに主治医へ報告を行う。

7事例目

発生場所	公立世羅中央病院
発生日	2023年12月14日
患者の年代	80代
患者の性別	女性
患者の居住地	県内
発生状況・ 結果の概要	深夜、洗面所の近くで右側臥位で横になっているのを発見。主治医報告、指示にて経過観察行う。日勤帯にて右手関節X-P・頭部CT検査施行、整形外科診察、右橈骨遠位端骨折と診断。
原因	離床センサーはONになっていたが、再起動中であったため鳴らなかった。ポータブルトイレ移動のみの患者であったため、ベッドから離れ出てくるのが予想できていなかった。
再発防止策	センサーの設定が患者に適しているかフローチャートに添った評価を行う。センサーの対応は迅速に行う。

8事例目

発生場所	公立世羅中央病院
発生日	2024年1月4日
患者の年代	90代
患者の性別	男性
患者の居住地	県内
発生状況・ 結果の概要	左側臥位で点滴台とともに倒れている所を発見。左顔面に裂傷・出血・腫脹あり。左前腕に1ヶ所、右手背に2ヶ所、右前腕に1ヶ所皮膚剥離・出血あり。主治医に報告、縫合後一般撮影・頭部CT撮影、左顔面骨折・血腫確認。抗生剤・止血剤の点滴施行し経過観察。
原因	患者の状態に合ったセンサーの設定が行えていなかった。
再発防止策	センサーの設定が患者に適しているかフローチャート添った評価を行う。センサーの対応は迅速に行う。

9事例目

発生場所	公立世羅中央病院
発生日	2024年2月16日
患者の年代	90代
患者の性別	女性
患者の居住地	県内
発生状況・ 結果の概要	訪室すると床に長座位となっている。落ちた入歯ケースを取ろうとされ転倒される。左下肢の動作不良と左股関節痛訴えあり。一般撮影施行後・右大腿転子部骨折と診断。2/20骨折観血的手術（大腿）が実施された。
原因	日中は、居室トイレでの排泄練習中でセンサー対応としていたが、夜間はポータブルトイレ使用のため、センサーをOFFとしていた。
再発防止策	歩行に不安がある場合は、移動動作が安定していてもセンサーの対応とする。